

日本と韓国の国際比較による成人口腔保健に関わる環境および病因の探索

・はじめに

日本人と韓国人は同じモンゴロイド人種の中でも特に遺伝的に近縁にあるとされています。一方で国家統計調査の結果を比較すると成人の口腔保健状態は日本人よりも韓国人のほうが良好であるという報告があります。日韓両国民の生活習慣の違いが両国の口腔疾患の罹患状況に影響している可能性が考えられます。

今回私たちは、久山町住民一斉検診の結果とヤンピョン市特定健康調査の結果を比較し、日韓両国の口腔保健状態の違いについて検討を行います。さらに唾液に含まれる細菌構成データの比較や全身の健康状態の比較から口腔保健に関わる新たな環境および病因の探索を行います。

・対象

研究対象者は、2007年6月29日～10月29日に実施された日本国福岡県久山町住民一斉健診の受診者の中、口腔診査を受けた2500名と2011年8月5日～8月31日にソウル大学が行った韓国ヤンピョン市特定健康調査で口腔診査を受けた600名を対象とします。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

本研究では、2007年に実施された久山町住民一斉検診の結果と2011年にソウル大学が行った韓国ヤンピョン市特定健康調査の結果を用い、両国の口腔保健状態と健診の際に採取した唾液に含まれる細菌の構成を比較します。全身状態についても比較を行い、口腔健康状態に影響を与える全身疾患、生活習慣要因についての検討を行います。

この研究を行うことで受診された皆様に余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院環境医学分野、歯学研究院口腔予防医学分野、ソウル大学歯学部予防歯科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしており

ます。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成 28 年 12 月 31 日まで

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果はう蝕および歯周疾患の発症機序の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野

教授 山下喜久（責任者）

准教授 嶋崎義浩

助教 竹下 徹

助教 古田美智子

大学院生 松尾和樹

九州大学大学院医学研究院環境医学分野

教授 清原 裕

ソウル大学歯学部予防歯科学分野

教授 Kim Hyun-Duck

准教授 Han Dong-Hun

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-6353

担当：竹下 徹